お元気ですか

第193号

発行所・（福）横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター
〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
ＴＥＬ045(681)1211・ＦＡＸ045(680)1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/
編集発行人・森　和雄

2021／3

コロナ禍での進路決定に向けて

情報を伝えたい！ 上菅田特別支援学校の取り組み

今年初めから流行した新型コロナウィルスの猛威が、季節が過ぎても終息の見通しが立たないなか、上菅田特別支援学校では教師たちが生徒に向けた自宅学習用の資料を作成し、オンラインスクールを配信するなど、さまざまな工夫を凝らして「子どもたちの学びを止めない」という取組を実践している。

そのことがきっかけとなり、相田泰宏教諭は、「進路担当としてできることは何だろう」と考え、進路先見学や進路説明会の動画配信を企画した。

相田教諭によると、進路担当の業務は、①進路先の見学、②進路説明会の開催、③進路面談の実施、④現場実習の対応と大きく四つに分けられるそうである。

業務のハイブリット化への試み

四つの業務のうち、オンラインでできること、直接やるべきことを分別し、進路先見学と進路説明会をオンラインに、面談や現場実習は安全に配慮しながらも対面でと業務の組み立てを行った。

オンラインでの取り組みの一つ、進路先説明会は、相田教諭によるキャリア教育や卒業後の進路説明の他、外部講師による基礎年金、後見的支援事業などの制度説明の動画を配信した。

進路先の見学動画の作成では、相田教諭が実際に施設・事業所を訪問し、駐車場から建物の外観、玄関から建物内部に至るまで、生徒の目線になってビデオカメラを回し、画面を通しての進路先見学を実現した。

メンバー退所後の夕方にカメラを回し、作業内容については、事業所の職員によるデモンストレーションを取り入れるなど、個人情報に配慮しながらも、イメージしやすい伝達を心掛けた。

また、肢体不自由特別支援学校である同校には、車いすを使用している生徒も多く在籍していることから、車いすでの目線を意識し、トイレの手すりの位置など、念入りに撮影をした。

さらに、動画を見る生徒の関心を高められるよう、BGMには馴染み深い同校の校歌と愛唱歌を流すなどの趣向を凝らした。

取り組みについて話す相田教諭

これからの展望

こうした工夫を重ねた結果、本人や保護者が事前に動画を見ることで面談時間の短縮につながった他、今まで仕事などで参加が叶わなかった父親も一緒に動画を見ることができ、情報をより多く届けることができた。

「コロナ禍にあって、学校生活でできなくなったことを一〇〇％戻すことは難しい。でも、与えられた条件の中で、実現可能なことを見つけていきたい」と語る相田教諭。

初年度は大変な苦労が伴ったが、コロナ禍でもできる形を模索した結果、今後は蓄積されたものを活かして、やがて全市的な取り組みとなることを目指している。

慣れない編集の作業に最初は苦労も…

望遠鏡

コロナウィルス感染症の拡大と共に医療体制の崩壊が取り沙汰され、命の選択をせざるをえない事態が起きている。

人工呼吸器が一つしかないという状況が起きた時、必要な人のどちらに呼吸器を使用するのかという選択を迫られたり、ベットが足りない時にどの患者を優先して入院させるのかという選択を迫られたりしているのだろう。

命の選択を迫られる時に、介護が必要な人、認知症の人など、入院した時に人手がかかる人はどうなるだろうか。がんの末期の人よりも若い人を優先する必要があるのではないか、などといった議論がはじまっている。

命の選択が、生きる価値のある命と生きる価値のない命を分けるものにしてはならない。障害があることを理由にしたり、高齢であることを理由にした選択をしてはならない。

（横浜市グループホーム連絡会　室津　滋樹）

「来未の会」の取り組みについて（瀬谷区移動情報センター）

「来未（くるみ）の会」は瀬谷区近隣の、移動支援に携わる事業所職員有志の自主勉強会として、平成三十年に発足した。会の事務局機能を瀬谷区移動情報センターが果たしながら、研修会の企画や事業所間の連携強化に向けた検討を進めている。

立ち上げのきっかけ

瀬谷区移動情報センターは平成二十九年一月に開設されて以降、近隣の移動支援事業所を集めた連絡会を開催してきた。様々なテーマでの情報共有が深まる中で、多くの事業所が支援やヘルパーの人材不足など、共通の課題を抱えている事が分かった。また、「事業所同士の横のつながりが無く、困った時の相談先が欲しい」との意見も挙がっていた。

こうした状況の中で「連絡組織が無いなら自分たちで作ろう」という、事業所の呼びかけがきっかけとなり「来未の会」は発足した。

発足後は、支援面・運営面でのスキルアップを図る研修会を行ってきた。研修会への参加をきっかけに、事業所間の距離も縮まり、日頃からやり取りが出来る関係が生まれてきている。

会の中心となる事業所の職員は、様々な課題を日々共有し、支援に役立つ魅力的な研修となるよう検討を行っている。単独の事業所では実施が難しい研修会でも、「来未の会」が企画を行い、瀬谷区移動情報センターが事務的なサポートを行うことで、ニーズに即した研修の実施や効果的な周知につながっているという。

研修会について

令和二年十一月には「利用者との信頼関係」をテーマに研修会が開催された。適切な支援とリスクマネジメントの考え方を学ぶ研修会として、講師には福祉分野への見識も深い弁護士を招いた。

トラブルを起こさないために福祉現場に求められる様々な専門性や、トラブルへの対応方法を中心に、理解を深める研修会となった。参加者からは「トラブルは起こしたくないが、起きてしまった後のフォローや対応をいかに行っていくか参考になった」といった感想が多く挙がった。

瀬谷区移動情報センターの担当者は、「事業所では様々な悩みを抱えているが、小規模な事業所も多く、職員が研修に参加する時間の確保が非常に難しい。支援が入っていない隙間の時間に、現場の課題に即した研修を近場で開催する事が出来るのが会の強み。ぜひ多くの方に『来未の会』の仲間に加わってもらいたい」と話す。

企画を行った会員は「悩みや課題を解決できず、移動支援事業から撤退・縮小してしまう事業所も少なくない。障害のある方の生活を支える大切な資源であることに、誇りと自信をもって、活躍してもらえるような研修会をこれからも企画したい」と今後への期待を語った。

研修会はオンラインでも同時開催された

ボランティアさん紹介

地域作業所 わくわくわーく（神奈川区） 桐ケ谷　八重子さん

▶手話で会話する桐ケ谷さん

NPO法人わくわくわーくが運営する、地域作業所わくわくわーくには視覚と聴覚の両方、又はどちらかの障害を有するメンバーが通っている。メンバーが安心して活動できるよう、職員・ボランティアが協力して環境を整えている。

桐ケ谷さんがわくわくわーくのボランティアを始めて十年以上が経つ。週に一度活動に参加し、自主製品作りのお手伝いや、手話を使った簡単な会話の通訳をしている。活動を始めたきっかけは、元々趣味で手話を学んでおり、賛助会員として所属していた神奈川県内の盲ろう当事者の団体で、作業所ができると聞いたことだった。

手話を始めて二十九年になるが、「長くやっていても難しい。手話は奥が深い」という。最初は不安な気持ちも大きかったが、職員やメンバーが温かく迎えてくれたので、出来ないなら出来ないなりにやればいいと思えるようになった。今では参加日前日は、翌日が楽しみでわくわくするという。長く続けてこられたのは、メンバー・職員・ボランティアそれぞれに信頼関係が築けているおかげと話す。「作業所に来て、メンバーさんと話すのがとにかく楽しい。いつも元気をもらって帰っている」と話す笑顔が印象的だった。

生活支援事業
～コロナ禍の工夫～

緊急事態宣言が発令された令和二年四月。各活動ホームで実施している生活支援事業も、一部事業を見合わせることとなり、例年とは違う形でスタートを切ることとなった。

その後六月に入り、少しずつ再開となった余暇活動支援、おもちゃ文庫について、機能強化型活動ホーム二館の工夫を紹介する。

余暇活動支援
さかえ福祉活動ホーム

さかえ福祉活動ホームでは九月に余暇活動支援として音楽プログラムを実施。参加は定員三名とするなど、少人数での企画とした。

感染防止の工夫

生活支援事業専任職員の大木さんは、余暇の実施に向けてどのような工夫ができるか、音楽プログラムの講師と相談。参加者の好みに合わせ、ゆったりした過ごしができるよう曲目の工夫をした他、活動ホームとして独自に感染防止対策のチェックリストを作成し、活用を始めた。

「チェックリストは基本的な感染予防対策の確認のために作成した。例えば、参加者への検温や手洗い、水分補給の声かけのタイミングをどうするか、席の間隔をどのくらい開けるか。このリストをもとに実施前に全体を確認し、終了後にはチェックを入れながら振り返りを行うように統一した。コロナ禍でも、楽しめる時間が持てるよう、余暇の機会を大切にしたい」と話してくれた。

音楽プログラムの様子

おもちゃ文庫
活動ホームしもだ

しもだでは七月からおもちゃ文庫を再開。感染予防のため、参加は電話予約制で定員を一回につき親子五組までとし、(可能な場合は)マスク着用を呼びかけるほか、入り口での検温、手指消毒など、基本的な感染予防対策を続けている。

距離を保つ工夫

専任職員の堀田さんは、他にも参加者同士が距離を保つ方法を検討した。「例えば、一か所に集中しないよう、様子を見ながら親子一組ずつ色の違うヨガマットに座ってもらうなどの声かけ。他にも、スタッフからの提案で、絵本の読み聞かせの際は離れていても見やすいように大型本を使用することも。子どもたちが自然に距離を取りながら楽しめる場、そして、家で過ごすことの多い今、少しでも家族にとっても休める場になれば」と話してくれた。

参加者からは、「今の時期、マスクの苦手な子どもにとっては、外出の機会が少なくなってしまう。おもちゃ文庫なら、障害に理解のあるスタッフがいるので室内で安心して過ごせる」、「同じ地域のなかで母同士が知り合う機会になっている。毎月の息抜き」との感想も。新型コロナウイルス感染症による制約が続く中で、本人、家族をどのように支えるか、取り組みは続く。

月に一度のおもちゃ文庫は
地域の大切な場所

障害者地域活動ホームあさひ
～離れていても皆とつながるタブレット 在宅支援～

令和二年四月、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、事業所に来られず自宅で過ごすメンバーさんに、電話による在宅支援が始まった。職員の声を聞いて安心する方もいれば、電話に出ることができない方もいる。ひとりひとりに合った支援を模索する中、誰かが漏らした一言「顔が見れるといいよね」が職員の心に残る。

一回目の緊急事態宣言解除後も、今後を見据え、顔の見えるタブレットを使ったオンラインの在宅支援を検討していたところ、ある助成金の対象となることがわかった。

ただ、全員を対象としたタブレットによる支援には、様々な課題があった。自宅のインターネット環境や一人ひとりのITスキルなどが異なる状況で、皆が同じように使えるのか。出された課題の解決策を探り検討を重ねた結果、全員分のタブレットの支給が可能となった。

取材をした令和三年一月時点では、二月中の運用を予定しており、年末から、先行してメンバーさんの才田さんがタブレットを使い始めていた。自宅にいながら朝の会や会議に参加でき、事業所にいるメンバーさんは画面越しの顔を見て「元気そう」と安心する。まだ多少の使いづらさはあるものの「電話より近くに感じる」と才田さんは満足気に感想を話してくれた。

新たな支援の可能性が見えつつある。

タブレットを通して
活動に参加する才田さん

「新型コロナウイルス対策研修」
～予防と発生前後の対応～

新型コロナウイルス感染拡大を受け、日頃障害者支援に携わる職員からその対策について研修を要望する声が障害者支援センターに多く寄せられた。その要望に応えるべく、障害者支援の現場における感染防止対策や、万が一感染者が発生した場合の対応について、武田理恵氏（公益社団法人神奈川県看護協会）を講師に招き、令和二年十一月二十日に研修会を開催した（横浜市障害者地域作業所連絡会・横浜市障害者地域活動ホーム連絡会・横浜市グループホーム連絡会・障害者支援センター共催）。会場での開催に加えてオンライン配信も行い、延べ二〇七名が参加した。研修内容の一部を紹介する。

講師の武田理恵氏
公益社団法人神奈川県看護協会
医療安全・災害医療対策課
特定行為看護師（感染）
感染管理認定看護師

手指衛生は感染防止対策の基本　～利用者を守るために～

新型コロナウイルスの特徴の一つは、感染していても無症状の場合があるということである。感染が広がらないためには、「自分が感染している可能性がある」という意識を持って行動することが重要となる。日頃から正しい手洗い・手指消毒を徹底すること、特に利用者に触れる前後には必ず行うよう注意を呼び掛けた。

陽性者が発生したとき

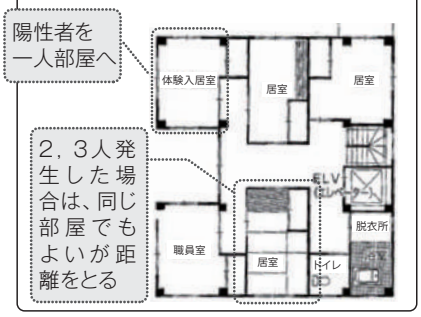
陽性者が発生した場合、陽性者の発病日から二日遡り保健所が濃厚接触者を定め、PCR検査が行われる。濃厚接触者となった場合は、陰性の場合でも感染者と接触した後十四日間自宅待機となる。

また、陽性者と対応するときは基本の感染対策に加え、ウイルスの飛沫感染と接触感染を防ぐことが重要となる。効果的な消毒方法やマスク・個人防護具の正しい装着の仕方についても説明があった。

特に、福祉の現場では元々人手不足の職場も多く、体調不良でも職員が出勤してしまう場合があり、現にそこからクラスターが発生している例もあるという。「職員は無理をしないことが大切」と語る。

グループホームのゾーニング

◉汚染区域と清潔区域を明確に区分する
◉トイレは可能な限り専用



日頃の備え

日頃の感染防止対策としては手指衛生に加え、環境消毒も重要という。具体的には、共用部分や備品はこまめに消毒を行い、ウイルスの量を減らすこと。

また、部屋の換気もこまめに行い、効率的に部屋の外に空気が流れるようにすることが重要となる。

また、組織の対応としては、陽性者が発生した場合のフロー図などを準備し、管理者などが不在でも対応できるようにすること。更に、物品の確保（個人防護具、アルコール消毒液、次亜塩素酸ナトリウム消毒液など）や、濃厚接触者や陽性者が入室する部屋の準備とゾーニングを決めておくことも重要と話す。

「平時のうちに体制や方法を整備しておくことで、いざというときのスムーズな対応につながる。正しい知識をもって、感染対策を」と語った。

ぼくのわたしのすきなこと　enjoy your life

地域作業所
第1はなかご（保土ケ谷区）
蝿田（はえだ）　優（まさる）さん

「はなかご」で運営しているカフェで接客や食材の買い出しなどを担当する蝿田さん。今回はそんな蝿田さんに二つの趣味についてお話しいただいた。

一つは始めて八年経つドラム。きっかけは十九歳の冬に観た映画の「けいおん」。その後、ドラマーのカズーマン（衣川先生）に出会い、習い始めた。

初め、生徒は蝿田さん一人だったが、通っていた学校を卒業する際のライブをきっかけに生徒数は増え、現在は友人やその家族など二十人近くとなっている。ドラム教室の名前は「カズーマン・ドラム・アカデミー」。現在はコロナ禍により休止しているが、年二回のライブも行っている。

最初は雑誌を積み重ねたものをドラムに見立てていたが、現在は購入した電子ドラムで毎日練習している。そのためか、音楽を聴くと自然と指でリズムを刻んでしまうという。

そして蝿田さんのもう一つの趣味が、十八歳の春から「長津田根っこ道場茶道教室」で始めた茶道だ。茶道は作法が難しいが、しっかり覚えたという。「お菓子はお茶の前に食べる」のだと楽しそうに教えてくれた。茶道のおかげで手首がスムーズに動くようになり、小さな文字も書けるようになったとのこと。

そんな蝿田さんの夢は「横浜の大きな舞台でドラムを演奏すること」。「早くライブをやりたい」と活動再開を心待ちにしている。

ドラムを演奏する蝿田さん

本人の将来をともに考えるために 地域で『体験の機会』を提供

障害があっても、なくても自ら経験していないことはイメージしにくい。漠然とした『将来』の暮らしについて、障害のある人に具体的なイメージを持ってもらおうと、様々な取り組みが行われている。今回は、西区の実践を紹介する。

新たな試み

昨年の五月から、『横浜障がい相談システムねくさす』では、ワンルームマンションの一室を借りあげ、法人独自の障害者生活体験事業を始めた。これは住み慣れた地域で、障害のある人やその家族が、将来の暮らしを具体的にイメージするためのもの。ワンルームの見学、調理などの生活体験や宿泊の機会を提供している。

ワンルームでの生活を体験

後見的支援室『さぽーと・ねくさす』では

早速、登録者やその家族にこの事業を紹介した。実際に見学した登録者からは「部屋が狭い」「お風呂とトイレが一緒で驚いた」などの率直な感想があった。あんしんサポーターの志賀さんは「これまでは、将来のことはわからないと話していた登録者と、見学後、一人暮らしには何が必要かなど、具体的な話が少しずつできるようになった」と語る。

また、担当職員の平山さんは「この事業の利用に至らなくとも、将来の暮らしを考えるきっかけにもなっている」と語る。この事業の説明を聞き「自分はグループホームよりは一人暮らしかな」とぽつりと想いを初めて語った登録者もいた。

これから

基幹相談支援センターの森さん(障害者生活体験事業担当)は「身近に体験の場があるので、現実味のある提案ができるようになった。また、その提案を実現するために、本人や家族、支援者と具体的な方法を考えていくことができる。この準備そのものが、将来の備えに繋がっていくのではないか」と語る。

西区の実践は始まったばかり。今後の展開に期待したい。

手作り表札でお出迎え!

※横浜障がい相談システム ねくさす
〈運営:(社福)横浜共生会〉
障害のある人やご家族が地域で安心した生活を送れるように、一緒に悩み、考え、支援していく拠点。基幹相談支援センター、計画相談、自立生活アシスタント、後見的支援事業(さぽーと・ねくさす)を実施。
連絡先:☎〇四五(五九四)七六八一
今回紹介した「障害者生活体験事業」の詳細は、こちらにお問い合わせください。

※さぽーと・ねくさす
西区の後見的支援室。あんしんキーパー、あんしんサポーター、あんしんマネジャー、担当職員がチームを組み、登録者やその家族の想いに寄り添いながら、登録者の願う地域での暮らしが実現できる方法を一緒に考えている。

動画配信! 第二十九回 障害福祉の未来を考える集い

障害のある方たちの暮らしや活動を豊かにするため、多くの市民や行政にアピールし、より良い理解を求めるため毎年、山下公園などの屋外で開催していた「集い」。コロナ禍にある今年、中止にするのではなく、継続すべきという思いから、動画の配信に挑戦した。

参加希望の皆さんから撮影した動画を寄せていただき、一般公開用の第一部と限定公開用の第二部の二本の動画が作成された。

第一部では、実行委員長をはじめ、作業所型、活動ホーム、グループホームの仲間からの声と、二〇二〇年標語の発表、そして集いの歴史を過去の映像と共に発信している。なお、第二部では缶バッジデザインコンテスト入賞者発表や団体の皆さんのダンスのほか、歌の発表、例年会場で大盛り上がりのオスミーのふたりによる歌など、皆さんが曲に合わせて楽しむ姿がおさめられている。(第二部は現在配信終了)動画の中には皆さんの笑顔と思いがあふれている。

動画を見て彼らへの理解が深まり、身近に感じるきっかけになってほしいと願う。

缶バッジデザインコンテスト入賞者の作品

第29回障害福祉の未来を考える集い(第一部)
https://youtu.be/oIa3ebd_hoY
第一部は、令和2年12月3日から約1年間公開予定。
QRコードからもアクセスできます

あゆみ荘だより

【あゆみ荘の裏側】夜間防災訓練

横浜あゆみ荘では火災の際にお客様の安全を確保するため、年に数回の防災訓練を行っております。

今回は深夜の職員が二名、消火器での初期消火に失敗してしまったら…という設定で訓練を実施しました。

まず事務所で火災警報が鳴ったら出火場所の確認と初期消火。消火が失敗してしまったら一人は連絡係として館内放送や消防署等への連絡。もう一人は誘導係として全ての部屋のドアを開け、「火事です！」と叫び、避難誘導、介助が必要な方は車いすを用い、誘導係が一緒に避難をします。二階の避難誘導が終了したら一階の大浴室などのお部屋でも同様に避難誘導をし、避難先の中庭で無事避難されたお客様をリストで照合。お怪我などの有無も確認します。その後到着した消防隊員に状況報告をするという確認で訓練は終了です。

「備えあれば憂いなし」と言います。火事の際にはご宿泊のお客様の生命を守ることが職員の使命です。いざというときにその役をきちんと果たせるよう、あゆみ荘では見えないところでもお客様の安全なご宿泊を保証するため、日々このような訓練を行っております。

防災訓練の様子

客室に冷蔵庫を設置しました

以前よりお客様から「客室に冷蔵庫を置いてほしい」とのご希望を多くいただいておりました。この度、全客室に冷蔵庫を設置いたしましたのでご利用ください。

客室に設置した冷蔵庫

冷蔵庫をご利用いただくにあたりましては、横浜あゆみ荘では飲食物のお持込みはできませんので、館内でご購入いただいた商品等の保管にご利用いただきますようご理解をお願いいたします。

横浜あゆみ荘は令和三年四月一日より全館禁煙となります

横浜あゆみ荘では、二階ふれあいホールに喫煙室を設置しておりましたが、令和三年三月三十一日をもって廃止いたします。これにより、四月一日より全館禁煙となります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

福祉バス「あおぞら」より

障害のある人の外出・行楽を支援するため、市内の障害当事者団体・施設等に福祉バス「あおぞら」の貸し出しをしています。大型バス（リフト付き含む）4台、小型リフト付きバス1台です。今年度から障害者支援センターが事業を担当しています。

団体会員の交流会としての研修や旅行、施設のレクリエーション、リハビリ教室の外出訓練等でご利用いただいています。

今年度、感染症拡大の影響を受けましたが、状況の落ち着いた時期に利用があった団体は公園や農園等、屋外で楽しめる場所を選ばれ、密を避けるプランで外出されていました。利用者からは「仲間と外出ができ、リフレッシュできた」「乗降時、消毒等の対応をしっかり取っていただいた」等の声が届けられました。

バス内の密な状況を緩和するため、利用できるバスの大きさ、台数等についてはご相談に応じています。ご利用の際は感染防止対策へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

お問合せ
福祉バス利用受付窓口
045-201-2049
ホームページ
http://www.yokohamashakyo.jp/bus/

支援センターだより

「令和三年感謝の集い」について

「令和三年感謝の集い」式典及び懇親会は、新型コロナウィルス感染症の影響により、やむをえず中止となりましたが、永年にわたり障害児者福祉の向上にご尽力くださっている方々に、感謝状と記念品を贈呈しました。

推薦団体からの推薦調書は、それぞれの活動にどれだけ支えられているか感謝の思いがあふれていました。

今回は一堂に会し、お祝いとお礼を伝えることができませんでしたが、ぜひ来年は皆で集えるように願っています。

感謝の集い受賞者

近藤久枝 様
太田美保子 様
大越木綿子 様
湯口直樹 様
保科達夫 様
鎭目ユキ子 様
飯盛好子 様
棚橋秀機 様
杉山晃 様
田川由美 様
ひなげしグループ
代表者 坂上宣子 様
語らい電話 様
谷口政隆 様
大木みどり 様
上原ひさ乃 様
（順不同）